

本人の供述

- 1 これから私が起こした規律違反について、申し述べます。
私は、4月16日（月）20時頃、体調管理と、ちょっと最近太ってきたという事から駆け足をしようと思い、アパートを出発しました。
- 2 私は常々2つのランニングコースを設定しており、ひとつは皇居の周りを走るコース、もう一つは国会議事堂の周りを走るコースです。時間のない時は、国会議事堂の周りを走るコースを選んでいました。皇居のコースについては、家を出て帰り着くのに2時間半かかるため、主に昼間走っておりました。国会議事堂のコースは2時間弱で走れるのと、夜でも明るく平坦で見通しもよく、走りやすいため、夜走っていました。当日は、出発時間が遅かったため、そちらの方に決め、概ね20時30分ごろに国会議事堂の周辺に着いて、議事堂をぐるっと1周しました。
- 3 そして、最後の直線の議員会館前の歩道を走っていたところ、民進党の小西議員と思われる方が私の左前方を私の走る方向と同じ方に歩いていました。追い越しの際、右斜め後方から顔が見えるという状況になりました。それで、追い越した際に小西議員かなと思って、また振り返ってみて、小西議員だと確信しました。その時、小西議員は、グレーのスーツにノーネクタイの状態だったと思います。
- 4 2度目に振り返った際に、小西議員と目が合い、小西議員は私に向かって軽く会釈をされました。私は特に会釈も何もせず走り続けました。進行方向の自民党本部側に渡って行く交差点の信号が丁度赤信号になり、そこでしばらく待つかたちになりました。小西議員は、私から90度右側の横断歩道を渡ろうとしており、偶然そちらの信号も赤信号のタイミングだったため、二人が交差点角のそれぞれの横断歩道の前でしばらく待っている状態になりました。この時の二人の距離は7から8mぐらいでした。

- 5 再度交差点で振り返り目があった時、小西議員は、私の方をちらちら見ながら、この人は支援者なのか、そうでない人なのかを伺うような様子で会釈をしました。
- 6 私は、小西議員が安全保障政策について具体的にどのような御意見を持たれ、どのような御主張をされているか、どのような活動をされているかについては、存じておりませんでした。ただし、平和安全法制について反対されていることは、たまたま目に入ったテレビ・新聞・雑誌のニュースなどで知っていたため、小西議員に対しては、総合的に政府・自衛隊が進めようとしている方向とは、違う方向での対応が多いという全体的なイメージで小西議員をとらえていました。小西議員から会釈された際、私は挨拶を返すのもどうかと思ったし、最初に見た時、一言思いを述べたいという気持ちが高まりました。そして、交差点で一緒になり、会釈された際に、私は小西議員へのイメージもある中、挨拶を返したくない気持ちもあり、無視をするのもどうかと思って、思わず「国のために働け」と聞こえるように、大きい声で言ってしまいました。
- 7 それに対し、小西議員の方からも「国のために働いています。安倍政権は、国会で憲法を危険な方向に変えてしまおうとしているし、日本国民を戦争に行かせるわけにはいかないし、戦死させるわけにもいかないから、そこを食い止めようと思って、私は頑張っているんです。」という反論がありました。恐らく、小西議員は日頃からネット上や様々なところで、色々な反対意見・批判を受けていて、そのたびに改憲や平和安全法制の話題で対立していたので、この種の反論になれているように感じました。
- 8 私は、これまでの災害派遣任務で経験したヘリから基地に空輸されてきたご遺体を目の当たりにしたときの強い衝撃や使命感、そしてすべての自衛官が持っている「事に臨んでは危険を顧みず」という覚悟から、「戦死」という言葉を身近に感じていました。また、先ほど申し上げた小西議員に対してのイメージを持っていたことから、小西議員の「戦死」という言葉の言い方が非常に軽く感じ、自衛官の覚悟を軽んぜられたと感じたので、『俺は自衛官だ。あなたがやっていることは、日本の国益を損なうようなことじゃないか。戦争になった時に現場にまず行くのは、我々だ。その自衛官が、あなたがやっていることは、国民の命を守るとか、そういったこととは逆行しているよう

に見えるんだ。東大まで出て、こんな活動しかできないなんて馬鹿なのか。』とむきになってしまい、言い返してしまいました。

- 9 すると小西議員は、だんだん私の方に近づいてきながら私も3～4歩近づき「あなたは現役の自衛官なのか。現役の自衛官が、そんな発言をするのは、法令に反する。」といわれた際に、はっきりとは覚えていませんが、『私のこの発言は、自衛官の政治的活動には当たりません。』というようなことを言ったと思います。その後、概ね以下のようなやりとりがあったと思います。

「名前と所属を言いなさい。」

『言いません。なんで言わないといけないんですか。』

「現役の自衛官がそんな発言をするのは、許されない。これは大問題だ。名前と所属を言いなさい。」

『いいえ、言いません。今は、一国民として私の思いを伝えています。』というようなやりとりだったと思います。

その後、小西議員は「撤回しなさい。現職の自衛官がそんなことを言うのは大問題だ。防衛省の人事局に今から通報する。」と言って携帯電話を出しました。このやり取りの際にはっきりとは覚えていませんが、『撤回しません。何が悪いんですか？名前は言いません。』と繰り返し言ったと思います。この時の二人の距離は、2 mから3 m程度に縮まっていた。

私は、再び駆け足に戻ろうとしました。するとそれを止めるように、電話をしながら、少しずつ私から離れていき、小西議員側の向かいの交差点にいた警備の警察官に「お巡りさん、お巡りさん、現役の自衛官が・・・、来てください、来てください、お巡りさん！」と警察官を呼びました。その時、そのまま走り去ってしまうと、警察官からやましいので逃亡したと誤解されると思いその場にとどまりました。

- 10 そこで私も反論して、『あなたは国民を代表する議員でしょ。私なんかよりも、何倍もの力を持っていて、何だってできるのに、何で一国民が訴えていることを聞いてくれないんだ。』というようなニュアンスで言いました。小西議員は、電話をしており、私の話には、取り合ってくれないような状況でした。この時、小西議員は、私がそのまま駆け足に戻らないよう私の方に近づいてきており、距離が再び2 mから3 m程度に縮まっていた。

- 11 その姿を見て、私は、『あなたは何で権力をかさに着るようなことをする

んですか。国会議員だったら、一国民が言っていることを、ちゃんと聞くぐらい、いいじゃないですか。本当にそういう行為（人の話を聞かない、すぐ通報する、すぐ警察を呼ぶという男らしくない行為）が気持ち悪い。』と言いました。小西議員は、電話先で「私は、参議院の小西ですが、今、現職の自衛官と名乗る男性から私のことを罵倒したり、冒瀆するような発言をしている者がいます。これは大問題ですから・・・」と通話しており、この後の語尾の方は、明確には聞こえませんでした。

12 そうこうしているうちに私の左方向から自分より若そうな20代ぐらいの警察官1名が近づいてきて、私と小西議員のほぼ間に立ちました。私は、その警察官に対し『勤務中に余計な仕事を増やしてしまい、本当に申し訳ないです。すみません。』と言いました。その警察官は、「はい。」と返事をされ、そのまま最初に小西議員に何があったのか聞きました。小西議員は、「この人は現役の自衛官らしいんですけど、いきなり私に国のために働けて、強く罵るんですよ。私は国民を代表する国会議員なんです。その国会議員に対してね、一自衛官がこんなこと言って来るなんてありえないから。彼は自衛官でね、強力な武器も扱う、警察のあなたたちもかなわないような実力組織なんです。実力組織の人間があんな発言をするなんて、恐ろしい。」と言っているのが聞こえました。私は、徐々に冷静になっていたため、特に何も言わず、黙っていました。

その後、4名程度の警察官が合流し、この人たちにも『勤務中に本当に申し訳ないです。すみません。』と言いました。私も警察官の一人から、事情を聞かれました。そのため、事情を説明し、身元を聞かれたので、住所、氏名、生年月日、所属など聞かれた事に答えました。その時の二人の距離は、7mから8m程度でした。

13 その5分後、麴町警察署の警察官3名が合流したので、この警察官たちにも同様に頭を下げ、もう一度同じ説明をしました。

この説明をしている間、小西議員は、警察の事情聴取に応じつつ、携帯電話で誰かと話をしている様子でした。（前半部分の会話の内容は、聞き取れませんでした。電話を切る間に小西議員が私にも聞こえるように「(電話の相手に対して)防衛省の人事局長ですよ、(私に対して)HPも検索すれば分かるから。」というような事を仰っていたと思います。)

- 14 私の事情聴取がひと通り終わった後、小西議員側の事情聴取が終わるのを2、3分程度待つ状況でした。この間、最初の警察官が来られた以降の時間も含めて10分程度あり、私も事の重大さを認識し謝罪しようと思い始めていたため、謝罪するための心の準備をしながら待っていました。その待っている間、警察官と私は、「駆け足の途中で、寒くないですか。」などの会話をし、「どうする、謝っておくかい？」と聞かれ、『はい、もちろん。ご迷惑をお掛けしましたし、ぜひ謝りたいです。』と言いました。それから、小西議員側の話が終わった様子を見て、私から事情を聴いていた警察官が、小西議員とも話をし、その後、私に対し「もし何か言うことがあれば、今この場で言ってもらえるといいと思いますよ。」と間を取り持ってもらいました。
- 15 私から小西議員に近づき3mぐらいのところできると、小西議員の方から、「あなたのさっきのような、人格を否定するような罵ったところとか、私の政治活動を冒瀆するようなこととか、そういったところを謝罪してもらえなかったら、特に防衛省に通報したりとか、そういうことはしないから。」と言われました。
- 16 私も事の重大さを認識し謝罪しようと思っていたため、小西議員に対し、今回のやり取りで、『馬鹿』『気持ち悪い』と言ったことについて、小西議員の人格を傷付けてしまったことに対するお詫びの気持ちで「個人の尊厳を傷つけるようなことと、考えの違いはあるかもしれませんが、日々日本をより良くしようと頑張っている政治活動を冒瀆するようなことを言ってしまい、大変申し訳ありませんでした。」と謝罪しました。
- 17 私の謝罪に対し、小西議員は、ご自身の政治理念を述べられ、具体的には、はっきりとは覚えていませんが、70年前に総理大臣を殺して226事件や515事件など、クーデターが起きたことを踏まえ、シビリアンコントロールが大事というような趣旨のことを話していました。小西議員は、「あなた、どう思う？」と問われたので、私は歴史のことではなく、今回の一連の案件を通じて『勉強になりました。』と答えました。私の本意は、自分の立場も考えず、言いたいことを言ってしまい、『自分は、まだ未熟だな、ちゃんと社会人としてやっていかなきゃいけないな。』という意味でした。
- それから、小西議員が私の方に近づいてこられ、私に右手を差し伸べ、私もそれを両手で握り返しました。小西議員は、そのまま手を強く握りしめ「見

解の相違もあるけど、あなたも家族がいるでしょうし、組織の中でも若いだろうから、しっかり頑張ってもらわないといけない。今回のことはそうやって言ってもらったから、防衛省には言わないから。あなたのような自衛官を殺させるわけにはいかないし、だからこそ憲法改正を何とかやめさせようと思っている。だから活動しているんだ。先日も、質疑の時に防衛大臣にサービスの宣誓の意味を問うたけれども、あの人は答えられなかったんですよ。あなたはそのような人の下で働いているんだってことをよく認識したほうがいいですよ。そういうところを私は危機感を持っているから、頑張っている。あなたもまだ若いから、日本のために一緒に頑張りましょう。」と言われました。私は、それに対して何も反論せず、頷きながら聞き、ただ「すみませんでした。」とだけ言いました。

18 その後、小西議員から「帰っていいから」と言われ、警察官の方も目配せして、「行っていいよ」という感じだったので、その場から離れ、信号を渡って自民党本部の側から走ってアパートに帰りました。

19 帰る途中、経路上のコンビニエンスストアでトイレを借り、用を済ませて出てきたところ、先程現場にいた警察官のひとりが追いかけてきており、再度所属を聞かれ、答えたところ、無線で連絡しているようでした。

20 その後、アパートに向かって走り始め、22時15分頃に帰りました。

21 アパートに帰ってすぐ、先程の現場で対応されていた警察官から電話があり、階級を聞かれたので、答えました。

22 私は、小西議員が安全保障政策について具体的にどのような御意見を持たれ、どのような御主張をされているか、どのような活動をされているかについては存じ上げておりませんでした。それまで小西議員のブログやSNS等を見たことがなく、小西議員が外交防衛委員会の委員であることや防衛省設置法や給与法に賛成しているということも知りませんでした。ただし、平和安全法制について反対されていることは、たまたま目に入ったテレビ・新聞・雑誌のニュースなどで知っておりました。具体的な媒体については、記憶しているわけではありません。

- 23 ただし、私は、平和安全法制は、日本と世界の平和に寄与するものと考えていたところ、小西議員がこれに反対していたので、「国のために働いていない」というイメージでとらえていたため、思わず「国のために働け」と大きな声で言ってしまいました。
- 24 また、そのような小西議員へのイメージを持っていたことや、すべての自衛官が持っている「事に臨んでは危険を顧みず」という覚悟から、「戦死」という言葉を身近に感じていましたので、小西議員の「戦死」という言葉の言い方が非常に軽く感じ、自衛官の覚悟を軽んぜられたと感じたことから、「国益を損なうようなことをしている」「国民の命を守ることは逆行している」「こんな活動しかできないなんて馬鹿」と言ってしまいました。
- 25 5月4日に調査官から、小西議員が本人に渡してほしいということで、小西議員の国会質疑を頂きました。小西議員が国会質疑等の場で主張されている具体的な内容を初めて拝読し、小西議員は、決して自衛隊員に対して批判的なことを仰っているのではなく、むしろ自衛隊員に敬意を払って頂いて、あくまでも我々を守ろうとの信念をお持ちなのだということを知りました。これまで誤解していたので、私の考えが安直であったと思います。
- 26 このたびは、小西議員の具体的な想いや活動内容を知らないまま、大変失礼な発言を行ってしまい、大変恥ずかしく、誠に申し訳ないことをしたと深く反省しています。